



Sr.池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ボア タールジ! : こんにちは!)

第10回目 9月18日(土)~9月24日(金)までのレポート

9月18日 マリンガ散策 日本庭園

今日は、マリンガに来て、初めて自分で過ごす休日でした（先週は、植田さんの計らいでイグアスへ行きました）。無理をしない程度に、ゆっくり歩いて市内の散策をしたいと思い、地図を片手に、日本庭園をめざすことにしました（地図上では4～5km程度かな）。

クリチバの町も街路樹が整備され、緑の多い町だと紹介しましたが、ここマリンガは、クリチバよりもさらに街路樹が整備され、街路樹で道路が覆い被さるぐらいです（右写真）。この写真の道が特別ではなく、どの道もこのような状態になっています。日本にもこのような道はありますが、特別な道だけでしょう。マリンガという街の都市計画はすばらしいと



思いました。その街路樹の中で特に目につくのは、左写真にあるブラジルを代表する花 IPPEI（イッペー）です。この IPPEI には、黄色、薄紫、薄ピンク、白の4種類があり、マリンガの所々を彩っています。

日本庭園に着く前に、Bosque das Grevileas という森林公園がありました。そこには、何の花か分かりませんでした。美しい紫色の花が遊歩道を案内するように片側に続いていました（右写真）。本当に自然に恵まれた街だと思いました。聞くところによるとマリンガは「緑の街」「歌の街」というのがキャッチフレーズだそうです。



4km 程度歩いたところで、目的の日本庭園近くにある交差点にたどり着きました。しかし、そこから、歩けど歩けど日本庭園に着きません。たまりかねて、近くの人に道を尋ねましたが、何を言っているか分からないなりに、この道をまっすぐ行けば左にあると言っているようなので、そのまま直進しました。



かなり歩いたあと、ようやくたどり着きましたが、地図の距離感とはかなりかけ離れたところにありました（結局3人に道を尋ね、7km以上は歩きました）。観光地図ってこんなものですね。ところが、いざ、日本庭園に着いてみると、土日閉園で中に入れそうにありません。しばらく、周りをうろつきましたが、たまりかね、工事現場から中に入ろうとしたところ、ちょうど日系の方がいらしたので、入園の許可を得ました。許可後、ようやく、誰もいない日本庭園を一人でゆっくりのんびり静けさを堪能させてもらいました。入り口には、移民 100 周年を記念して作られたであろう立派な塔

（写真左）もありました。クリチバにも日本庭園がありましたが、クリチバのそれとは比べものにならない広さと落ち着きのある施設でした。

9月20日 マリンガ教育事務所での日本教育説明と州立学校セラポロ校訪問



月曜日は、マリンガ地区教育事務所内の情報交換日で、全員集合するので、日本の教育と学校についての説明をさせてもらえるようお願いしました。いつものようにパワーポイントとビデオを使い説明しました。かなり好評でいつも同様、説明後は矢継ぎ早の質問攻めでした。今回の質問で新たなものは次のようなものでした。

- ・高校受験と高校のレベル
- ・公立校と私立校の学力レベルの違い
- ・英語の授業時間数
- ・読書について
- ・コンピュータに関する授業

また、「留年」と「特別支援教育」に関する質問は、どの会場でも出されます。特に留年については、教師の中でもその必要性について考え方が分かれているようで、中には、留年は必要ではないがブラジル教育では留年制も仕方ないと考えている方もいるようでした。

今日の訪問校は市の中心部にあり、改装されたばかりの綺麗な学校でした。この学校も、IDEBの結果がよく、アプカラナとしても自慢できる学校の一つだと思いました。右に校舎平面図を載せましたが、敷地面積はおそらく6500㎡位で、日本の1/3程度だと思われま



す。州立学校を訪問して思うのは、敷地の面積の狭さと様々な施設設備の未整備です。ここら辺が、ブラジル教育の今後の大きな課題だと思われま



す。その中で、ひときわ目につくのが、各教室に備えられているオレンジ色のテレビです（パラナデジタルと言います）。これは、州の教育局を訪問した際にも多くの場所で紹介されたパラナ州の自慢の機器です。2005年ぐらいからパラナ州内全ての学級に設置されたテレビで、ビデオ・DVD・USBも挿入でき、また、教育局で管理している映像データや教材、州教育局で作成した教育番組までも見ることができる優れものです。また、

コンピュータ室には、20台のPCが全州立学校に配布されています。PCについては、日本に比べまだまだ十分とは言えませんが、パラナデジタルの仕組みについては、日本より遙かに進んだシステムであるといえます。どちらかという、これまで、教室という仕切で区切られた校舎という箱だけが各地に作られ、そこで教育を行っていた感のあるブラジルですが、今まさに、中身の充実を開始したというところです。

もう一つの課題は、教師の意識だと思えます。この学校でも座談会を行いました。どの学校でもそうですが、先生方の意識としては教育に対して高い関心を持っています。その興味関心を上手に研修という手だてにつなげていくことができると良いなと思えます。研修についても、パラナ州では今まさに形作られはじめています。



9月21日 アフカラ日本語学校訪問、ブラジル編入のスムーズ化の糸口

ブラジルに来て初めて、日本語学校を訪問しました。学校という名前が付いていますが、感覚的には、日本語の塾です。日系人の多い地区には、このような日本語学校がいくつかあり、日本語や日本文化を勉強しています。今日訪問した時間帯には、3人の子が日本語の勉強をしていました(8,9,11歳です)。



日本語の勉強は1回2時間、週2回行おうそうで、右写真の子たちは、火曜日と木曜日の午前中の部です。この学校では、午前・午後・夜間を利用し、大人から子どもまで含めて、合計23人の生徒が少人数編成で勉強しています。生徒の中には、非日系の生徒も4人いて、



日本の文化に興味があったり、将来通訳を目指していたり、日本へ出稼ぎに行くことを目的にしている人などもあるそうです。先生は2人です。授業は、会話を中心に行い、読み書きやそろばん(左写真)も取り入れ、飽きないように工夫されました。私たちが訪問した際にも、まずカタカナの練習をし、その後、そろばん、そして、最後には、今週末に行われるパラ

ナ州の話し方大会の練習を行っていました。

指導に当たっては、指導計画が用意され、指導計画に基づいて学習が進められていました。右写真上は、何時間目に何を学習するかの計画、そして、右写真下には、1時間分の授業案です。あとは、個人個人の能力や興味関心に応じて教材をさまざまに準備するそうです。日本の先生と全く同じです。さらに、ジャイカから派遣されロンドリーナにいるシニアボランティアの先生(退職教員)を月1回招いて、研修会を行ったり、年2回行われるパラナ州全体の研修会にも参加したりするそうです。日本語教育のためにがんばっている先生方の様子を見させて頂きました。

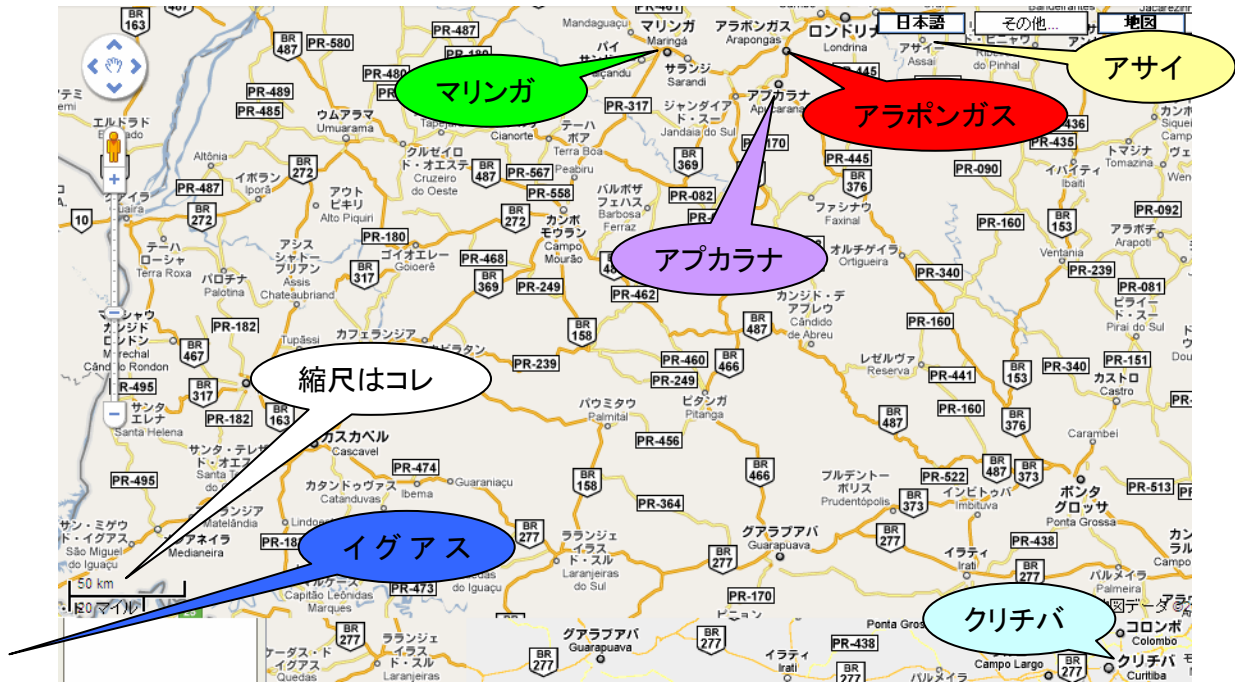


先生方といろいろな話をしている中で、日本からブラジルに編入し苦勞した子の話になり、私から、次の提案をしました。

日本語学校で、ポルトガル語も教える教室も開設してみてもどうか。

これまでの様々な訪問から、日本からの編入者の個人的な対応をブラジルの学校に依頼することは大変難しいことだと思いました。それであれば、このような塾のようなところが、ポルトガル語を教えることで、ブラジルへ帰国し、ポルトガル語で困っている子を救えるのではないかと考えたからです。この考えには、日本語学校の先生も大いに賛同してください、新年度の生徒募集の際には、日本語だけでなくポルトガル語の指導も載せることを約束してくださいました。ブラジル編入のスムーズ化の糸口の一つができたように思います。できれば、このようなところがそれぞれの町にできると良いと思います。

9月22日 アラポンガス市教育局訪問



今日は、まず、パラナ州の一部の地図の紹介です。右下にクリチバ市があります。ここは、私が渡伯直後に滞在したパラナ州の州都です。そこから、400km ぐらい離れたところにマリンガがあります（地図上緑色）。今は、ここを拠点に活動しています。ここ数日は、マリンガからアケミさんの車で 70km 近く離れたアプカラナ市（紫色）へ通っています。そして、今日は、さらにアプカラナ市から車で 30 分ぐらいかかるアラポンガス市の教育局を訪問しました。ちなみに、先日行ったイグアスは、地図左からはみ出した青色の地点です。位置関係が分かって頂けたでしょうか？来週半ばには、アサイ（地図上黄色）へ、そして、10月中旬には、パラナヴァイ（今回の地図には載りませんでした）へも行きます。

アラポンガス市は人口 10~11 万人程度の中都市です。ここに、1~5 年生を対象にした市立の学校が 26 校あります。ちなみに、全国学力テストの IDEB の結果は、パラナ州内 399 市の中で 7 位だそうです。その要因を尋ねたところ、国語算数に特に力を入れており、算数では遊びながら考える力をつける取り組み、国語では読書の取り組みを行っていることと、2 年前に、各学校の問題点を各校で洗い出し、その問題に対する解決プロジェクトを各校で取り組んだ結果だと答えてくださいました。転編入についても話を伺いました。ここでは、成績証明書、在学証明書は日本語でも OKらしく、翻訳をこちらでやるそうです。今後の連絡のために、連絡先を伺いました。

【educacaoarapongas@hotmail.com】 or 【educacao@arapongas.pr.gov.br】

午後から、日本の教育についての紹介をしました。今回は、全職員が集まる場ではなく、主だった職員のみにも聞いてもらいました。ですから、人数が少なかったですが、右写真奥には、テレビ局の方もいます。この地区のテレビで放映されるそうです。



9月23日 アラポングス市立パードレ ジェルマー マイヤー校訪問

今日は、アラポングス市立のパードレ ジェルマー マイヤー校を訪問しました。

この学校の第1の特徴は、通常学校に耳の不自由な子をはじめとした障害を持つ子を多く在籍させている点です。全校数は383人でそのうち障害を持つ子が16人います。耳、アスペルガー、目、知的、身体など広範囲にわたっていますが、

特に耳の不自由な子が多く、全職員、手話ができるそうです。障害のある子が在籍しているということもあり、各学級の人数も20~30人程度で、しかも、障害のある子には補助者が付き、担任と二人体制で授業を行っています。また、障害のある子には、その子が通学する時間帯と反対の時間帯に登校させ、特別指導も行っていました。(写真左)



第2の特徴は、特別授業がカリキュラムに組み込まれていることです。写真右は、手話の授業です。これは、来週行われる手話劇の練習をしているところです。本校在籍の子は、ほとんど手話が分かるそうです。手話の他に、筋道立てて考える力をつける算数、チェス、体育、美術が、特別授業としてカリキュラムに組み込まれ、通常授業以外に子どもの能力育成に役立っているそうです。アラポングス市の市立学校ではこの特別授業が行われ、他の学校では手話



の代わりに国語（読書）が行われていることもあり、昨日紹介した IDEB の成績も良いようです。



第3の特徴は、自作の教科書があるということです。今年から活用しはじめたものです。左写真上は、教科書作成の原本になった教務作成のノート。これは、教務の先生が自分の実践を元に作成したものです。このノートを元に、左写真下の教科書を作成しました。もちろん市販の教科書もありますが、本校の子どもの実態に合わせた内容にするために、本校の子どものために作ったそうです。お金がかかるので（決められたものを使えばもちろん無料）、保護者の同意も得て、この教科書を使用しているそ

うです。現在は、新1年生のものだけがあるので、今後、新2年生以降のものも作成していく計画だそうです。まさしく、本校独自の教育課程作りを教科書作成という手段で行っています。

本校には、以上大きく3つの特徴があります。最近、本校が全国誌に掲載されたそうで、その見出しには「誰も後ろに残さない」と書かれていたそうです(右写真)。



9月24日 エミリオ テ メネゼス州立学校訪問

私の訪問の基本パターンは、次のようになっています。毎日、似たような訪問をしているように感じられるかもしれませんが、それぞれの市で次のパターンを繰り返します。日程的に余裕のある市については、③④を複数訪問する場合があります。



- ① 訪問市に州教育事務所がある場合、州教育事務所を訪問
- ② 訪問市の市教育事務局を訪問
- ③ 訪問市にある州立学校を訪問
- ④ 訪問市にある市立学校を訪問
- ⑤ 日程に余裕があれば、訪問市にある日本語学校を訪問

ここ数日訪問しているアラポンガス市は、アプカラナ地区の教育事務所管内にあるため、①の訪問はありません。②は9月22日に、③は本日、④は昨日9月23日に訪問、⑤は日程に余裕がないのでアラポンガス市では訪問しません。

ということで、本日はアラポンガス市にある州立学校訪問です。この学校は、外観がとてもすばらしく（左写真上は玄関）、州立の学校とは思えない作りです。これまでいくつかの州立や市立の学校を訪問しましたが、このような作りは初めてです。ブラジルでは、私立の学校は予算的にも恵まれ建物も設備も充実しています。それに引き替え、公立（州立、市立）は、余り充実していないというのが一般的です。その中で、この建物は目を見張るものがあります。また、中に入りはじめに目に入った中庭（左写真中）も、これが公立？と思わせるものでした。教室（左写真下）も、三角屋根で天井が高く、両側の窓で採光も良好、これまで、公立の学校では密閉した雰囲気がありました。本校の学習環境は結構良いと思いました。

本校は、5年生～高校3年生までが、午前 646 人・午後 623 人・夜間 150 人に分かれ、勉強しています。高校生の中には教員を目指す専門のクラスも午後の部に4、夜間に2クラスあります。このクラスを卒業すれば、教員になる資格を得ることができるそうです。

取材を終えた後、一般の先生方、その後教務の先生との座談会をもちました。質問や話した内容については、これまでに訪問した学校と似たようでした。しかし、気になったのは、この学校の先生方には、余り笑顔がなかったということです。最後の校長先生の話で分かったのですが、この学校では、教務の先生方が一般の先生方に、そして、先生方が生徒に厳しく対応し規律を保っているようです。例えば、教室には全てビデオが設置され、生徒の状況を監視し、喫煙・携帯などを取り締まっているとのことでした。座談会の時、険しい印象を受けた先生方の雰囲気はそこからくるのだなと最後に分かつと同時に、逆に心配になりました。

